

## ガ ラ ビ ア

本郷 美枝\*・雲田 直子\*\*・木曾山かね\*\*  
(昭和61年9月29日受理)

### GALABEYA

Miye HONGO, Naoko KUMODA and Kane KISOYAMA  
(Received September 29, 1986)

#### はじめに

本学の生活資料館には、アジアほかの民族服が何種類か所蔵されている。今回はその中のアラビアの民族服「ガラベヤ」(レバノン・ベイルート市内で購入、寄贈者山岡克己氏)、エジプトの民族服「ガラビア」(エジプト・ルクソール市内で購入、寄贈者木曾山かね)、その他に2点、計4点のガラビアがあるので比較研究してみることとした。現地の状況などを深く知りたいため、長く居住し、仕事をしていられた山岡克己氏、磯辺隆介氏に話を伺う機会を得た際、パハレーンからアバーヤ(ABAYA)、スルワール(SARWALU)など、数点に及ぶ貴重な資料を取り寄せ寄贈頂くことができ、これらも併せて観察研究することができたので、ここに報告

したい。

#### 研究方法

1. 資料に関しては、実物観察と現地で撮影してきた写真や、山岡克己氏、磯辺隆介氏に伺った現地の状況についてまとめた。
2. Galabeya, Abaya についての史的考察をおこなった。
3. 資料の分類を行い、観察記録し、比較した。
4. 縫製に関しては、実物を観察、採寸し比較した。

#### Galabeya・Abaya の史的概要

##### Galabeya について

Galabeya は、エジプトのベドウィン(遊牧民)

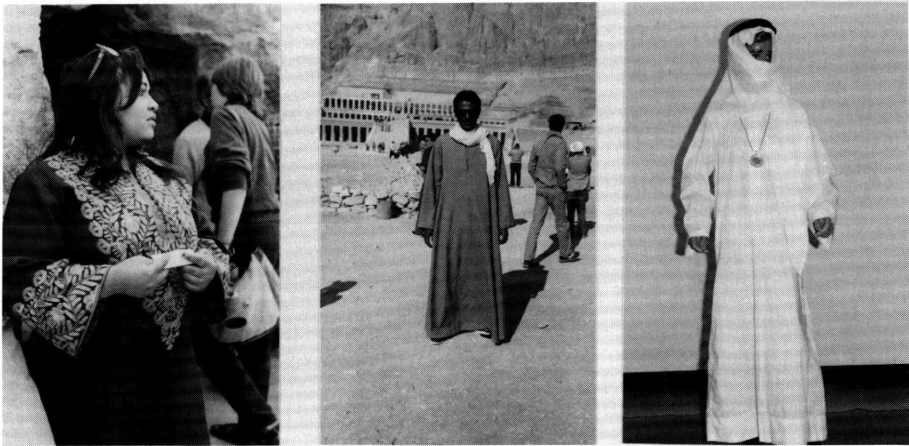


図1 ガラビア レバノン・ベイルートで購入のガラベヤ

\* 被服構成学実験研究室

\*\* 第2被服構成研究室

が、男女共に着用するゆったりしたワン・ピース形式の Robe である<sup>1)</sup>。エジプトは灰褐色の広大な砂漠と、そこに流れる一本のナイル川があるのみで、砂漠性乾燥の熱帯的気候<sup>2)</sup>のところである。従って Galabeya という長裾でガウン状の寛衣、胸迄開けた貫頭型で足首迄の長めの、裾口のやや広いもの、衿ぐりは丸く、袖は筒袖のものを着用する。帯は締めない。それは、よく吹きまくる砂嵐、暑さのために出る汗から身体を守り、少しでも生活し易くと工夫したためであって、砂漠地帯共通のものである。エジプトの男子は、この裾の長いゆるやかな衣服を着たままで働くのである。頭にはカフィエ (Kaffiyeh) と呼ばれる布を被り、これを押さえるためにアガル (Agal) をのせる。又は布やレースで編んだターバン (Turban) をつける。子供達は頭を覆うことを嫌がるので、太陽の恐ろしさを充分にわからせなければならぬ<sup>3)</sup>。といわれている。

Galabeya の素材としては、木綿、麻、モスリンなどが比較的多く用いられている。男子物には、無地の外、縞物などもある。男子の最も一般的な服装としては、Galabeya にタエイヤ (Takya) を被る。女子の物は、袖口、袖付、或るいは前首に刺繍などがしてあるものもある。これにタルハ (Tarha) を巻き、ボロー (Boroo) といわれるネットの顔覆いをつける。

伝統的なアラブの服は、その土地の風土や生活様式に合った、ゆったりとした長衣であるが、衿の形、布地の種類、裁断の方法などによって区別され、それが着用される地域や職能、社会的地位を判別できるものとなっている。しかしガラビーヤ (Gallabiya) といえ、アラビア語のジルバーク (衣服) がなまったエジプト方言で、エジプト農民のまとう服をさすことになる。一つはバラディーと呼ばれ、農民の着用するものであるのに対し、アフランギーと呼ばれるもう一つの型は、ワイシャツの形を取り入れたもので、丁度シャツをそのまま裾長くした形をしており、村の教師や農協の職員が着ていた<sup>4)</sup>。現在も階級の高い人は良い質の物を着ているが、洋服を見ただけではそこには階級は出て来ない。

都市に住むアラブの人も砂漠のアラブ人も、家の中では比較的自由に、特に女性はカラフルなTシャツとかブラウス、下はスカートなどを着用している。

外国から出稼ぎに来ている人々は、割合自由な服装をしているが、それでも Galabeya を着用することが多いようである。Galabeya の国別の着用状況は、エジ

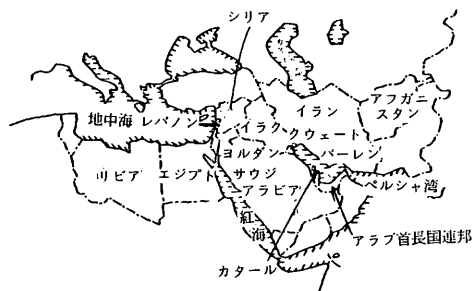


図2 アフリカ北部、アラビア半島、西アジアの国々

プト全般では20~30%だが首都のカイロでは25%、地方のルクソールでは75%と多い。サウジアラビア、クウェート、カタール、アラブ首長国連邦、バーレーンでは50~60%、レバノン、ヨルダン、シリアは20%以下である。リビア、イラクでは殆ど着用していない。イランも男子はあまり着用しておらず、ホメイニ師がもっと多くの人が着るように、と努力しているそうである。特に女性は、ベールを被るよう厳しく通達している。

※ アラビア語ではガラベヤではなく、ジャラビーヤと一般に呼ばれている。

#### イスラム教とAbaya

イランでは、なぜそのように男女とも現代的な服装を好ましく思わず、Galabeya を着用したり、女子の覆面包身を説くのであろうか。これは一つには宗教的な面からもきていると思われる。

7世紀前半、マホメットによって始められたイスラム教は<sup>5)</sup>、各地で深く静かに浸透していった。

イスラムとは「神への絶対的服従」を意味する。イスラム風俗の特色は男子のターバン、女子の覆面包身である。イスラム信仰の中核をなす六信と五行は、イスラム教徒が信じ、かつ実践すべきこととして明確に定められていることである。六信とは六つの信仰事項を指し、「神」、「天使」、「啓典」、「預言者」、「来世」、「定命」を信じることであり、五行とは五つの宗教的義務、即ち「信仰告白」、「礼拝」、「救貧税」、「断食」、「巡礼」を行なうことである。その内五行の「礼拝」は、メッカの方向に向かってひざまづき、額を地につけて拝むことで、これは神に対する人間の「絶対的服従と感謝」の表現とされている。

礼拝の前には水で身体を清めねばならず、水がない場合には、清い砂で浄めてもよいことになっている<sup>6)</sup>。礼拝は一日五回、夜明け、正午、午後、日没、夜と定めら

れている。

指導者、インテリ層の宗教意識は、近代化と共に以前に比して非常に薄らいで来た。しかし、圧倒的多数を占める一般大衆の信仰心は、依然として強いようである。

金曜日(休日)の正午の礼拝は、主要な寺院で集団礼拝するように定められており、それ以外は各個礼拝で、礼拝時には礼拝用敷物を敷き、男は頭に被り物をつけ、女は Abaya を着用しなければならない。



図3 エジプト・カイロ市内にて

Abaya (アバーヤ)とは、女性が外出の時に上着の上に被る黒い布で、丈が長いものと短いものがある。国によりそれぞれ名称、形が少しずつ異なり、イラクではアバー (Abah)、パキスタンではブルクワ (Burqua)、アフガニスタンではチャドリ (Chadri)、イランではチャドル (Chador)、エジプトではミラエ・アルリフ (Milayeh Al-liff) などであるが、乾燥気候の回教国では、一様にこのような外衣を身につける。

イランは国民の約98%がイスラム教徒であり<sup>7)</sup>、1925年～1941年の間国を治世したレザーシャーは、女性の解放と近代文化を目指して、テヘランの師範学校の式典に参列する折り、チャドルをつけない王妃と二人の王女を伴い、チャドル着用の禁止を宣言した。1941年退位までこの禁止は厳守され、着用する女性には、大通りを歩くことも公共の乗物を利用することも禁じ、商店も彼女らに物を売らぬよう指示した。しかし、レザーシャー退位後は、驚く程早くチャドル着用が復活した。1941年以後の皇帝ムハammad・レザーはこれを禁止せず、成り行き

にまかせる方針をとった。

特に豊かでない女性の間で急速にこの風習が復活した理由は、チャドルがポロかくしになるためであった<sup>8)</sup>。

イランでは、ホメイニ師が自由になり過ぎた民衆の服装を元に戻そうと努力をしている……と現地の声を聞かせていただいたが、それから10日もたたない昭和61年7月13日(日)の毎日新聞には、テヘランの西敏彦特派員から次のような通信が入り、掲載された。

厳しい風紀取り締まり、洋服店も営業停止続々  
「半そで」で官庁出入りは「露出罪」

本格的な夏を迎え、連日30℃以上の猛暑の続くテヘランで、いま話題になっているのが例年にない当局側の風紀取り締まりの厳しさだ。イランは七年前のイスラム革命後炎天下といえどもチャドルを頭からスッポリ被るか、頭にスカーフを被り、体にはダブダブのコートを着用するかの、どちらかが女性に求められ、街頭でこれ以外の服装の女性にお目にかかることはまずない。コミティ(革命委員会)と呼ばれる風紀取り締まりのグループが街頭を巡回しながら摘発にあたるわけだが、これまで口紅の濃さや派手な色彩など表面的に見える範囲内のチェックにとどまっていたのが、スカーフを取らせて毛染めの有無を、サングラスを取らせてアイシャドウを、手袋を取らせてマニキュアを、とチェックは入念の度を増している。ハイヒール、薄手ストッキングにも厳しい目が注がれる。一方男性への対応も一段と厳しくなっており、今夏半袖姿での官公庁への出入りは一切不可能。イスラムの教えによれば、男性の必要以上の肉体の露出は、女性に劣情を起させると戒められている。これらの風紀取り締まりに触れた場合、これまで説諭か罰金程度で済まされるケースが多かったが、モフタシャミ内相がこのほど明らかにしたところによると、初犯はこれまで通り説諭程度ですむが、再犯の場合、公務員なら解雇され、一方パスポートの発給、医療保険の適用など、公的機関による便宜供与から除外される。職業安定所でも今後風紀取り締まりに関する摘発歴を重視、再犯者には就職のあっせんをしないことにする、という。

「西側の腐敗した商品を販売している」としてTシャツ、ジーンズ、女性下着の専門店など、ここ一ヶ月で革命以来最高の一軒以上も営業停止処分を受け、店を閉じており、テヘラン市内の繁華街もクシの歯がぬけたようだ。



図4-1(1) 資料1 (エジプト)

資料2 (エジプト)

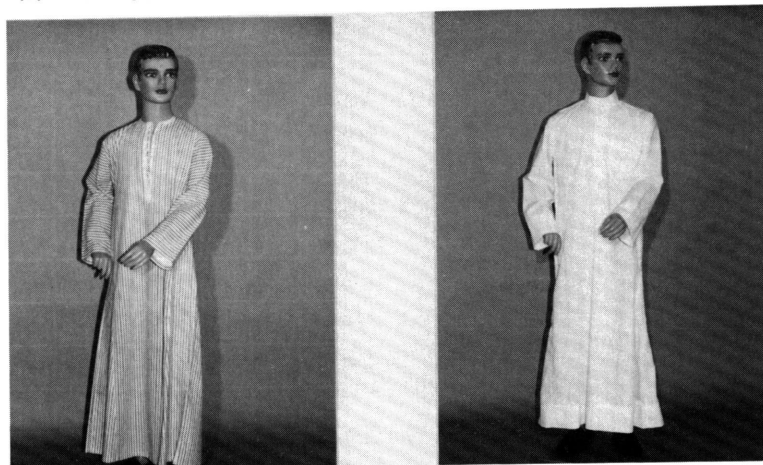


図4-1(2) 資料3 (エジプト)

資料4 (レバノン)

### 縫製について

今回、調査観察した資料は、図4に示した。

資料4点の素材、デザインの特徴は、表1の通りである。

1. 縫製の観察記録は、表2に示した通りである。資料1～3は、ボタンを特別使用したとは思えず、左右上下の寸法にかなりの誤差が見られた。
2. 資料2, 3, 4は、それぞれ脇縫い目を利用したポケットがつけられており、前後にまたがって裏からミシンで押さえてある形に興味を覚えた。又、資料2は右脇ポケットの他に、右胸にも切り替え線を利用して裏からミシンで押さえたポケットがついていて、細いブレードでポケット口を飾っている。(図6-2, 図

6-3, 図7-2, 図8-2, 図9)

3. 前明きのループ付けの場合の持ち出しが、普通と異なり反対側(ループ側)についている。(図10)
4. ボタンもループも、細目のブレードで作られている。
5. 資料4は、縫い代がロックミシンで始末、ボタンホールは機械でかがってあり、工場で縫製された既製品と考えられる。
6. Abayaの素材は絹100%で、90cm幅2.75mの布2枚を図11のように横長に縫い合わせてあり、周囲はすべて細編みの上に松編みで縁取りされている。  
袖口は、両脇のわになっている部分を上部から切り込みを入れ、裁目を内側に三つ折りしてミシンで押さえ、周囲をレース編みで縁取りしてある。  
又、両脇辺で山型に縫い込むことにより後中心に余裕

ができ、これが頭部を覆う分量となっている。

表1 資料の分類

	国名	素材	色・パタン	デザインの特徴	備考
資料1	エジプト	木綿	白地 (無)	前身頃全面と衿ぐりにカラフルな刺繍	女性用
資料2	エジプト	モスリン	グリーン (無地)	衿、衿ぐり、前裾中央スリット、袖口スリット周囲に濃茶の刺繍、衿、衿ぐり、各スリットはグレイのブレードでトリミング	女性用
資料3	エジプト	木綿	白地にグリーン の縞柄をプリントしてある	衿ぐり、前明きの周囲を白のブレードでトリミング、ボタンとループも細い白のブレードで作ってある	男性用
資料4	レバノン	ポリエステル 65% 木綿 35%	白地 (無)	既製のワイシャツのようなスタイル	男性用

表2 縫製の比較

	衿 衿ぐり	脇縫い 脇布との接ぎ目	肩・袖下	袖付け	袖口	裾	ポケット	備考
資料1	衿なし。前衿ぐりから15cmのスリット。縫い代を内側に折り、刺繍のステッチでおさえてある。裁ち目のまま。	縫い合わせて片返し 裁ち目のまま	縫い合わせて片返し袖口を始末してから袖下縫い。	1度縫い 裁ち目のまま	裁ち目を1cm 折返してミシン	1cmの三つ折 でミシン	なし	
資料2	スタンディングカラー前衿ぐりから28cmのスリットで見返し仕立、グレイのブレードをのせている。	同上	肩は前身頃に片返して押えのミシン袖下は縫い合わせて片返し	同上	同上	同上	右脇にポケット、ポケット口は耳で内側に折ってミシン、右胸に小ポケット、ポケット口にブレード	
資料3	衿なし、前衿ぐりから32cmのスリット。見返し仕立、白のブレードをのせている。右前ループ側に持出しがついている。	折伏せ縫い	折伏せ縫い	身頃に折伏せ縫い	耳を2cm内側に折返してミシン	1.5~2cmの三つ折でミシン	両脇にポケット	ヨークは2枚仕立
資料4	スタンディングカラー前明きは簡略な比翼仕立	伏せ縫い、裁ち目はロックミシンで始末	伏せ縫い、裁ち目はロックミシンで始末	身頃に伏せ縫い、裁ち目はロックミシンで始末	10cmの仕上がりで折って端ミシン	10cmの仕上がりで折って端ミシン	両脇にポケット、前身頃左胸にパッチ・ポケット	ボタンホールはミシン made in KOREA

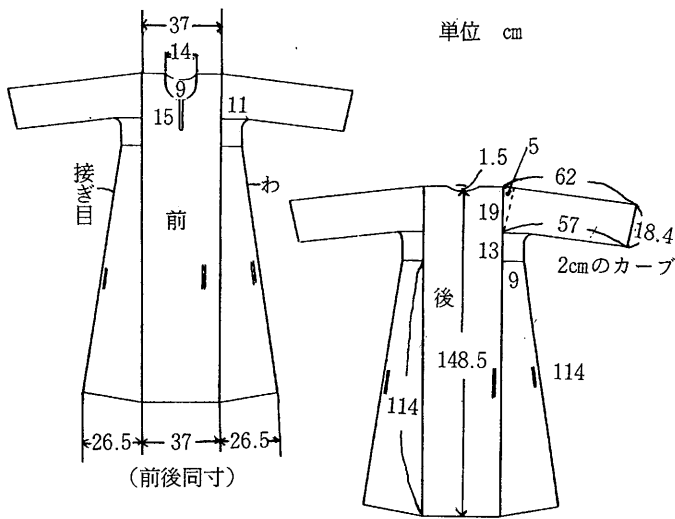


図5 資料1

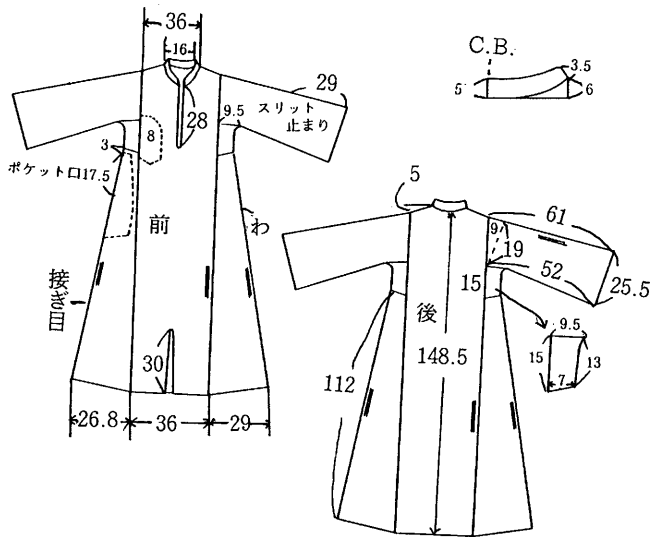


図6-1 資料2

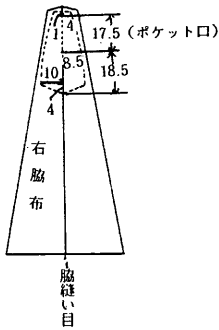


図6-2 資料2の右脇ポケット



図6-3 資料2の右胸ポケット

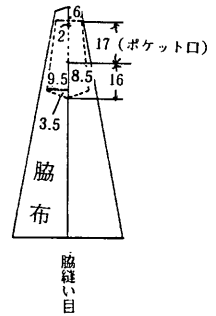


図7-2 資料3の左右脇ポケット

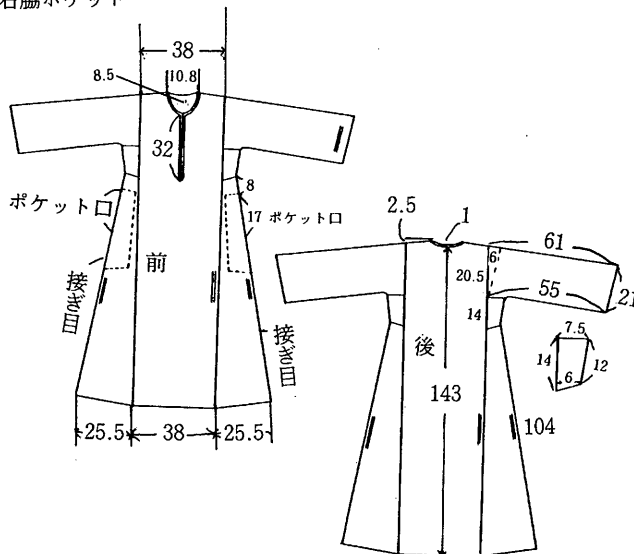


図7-1 資料3

ガラビア

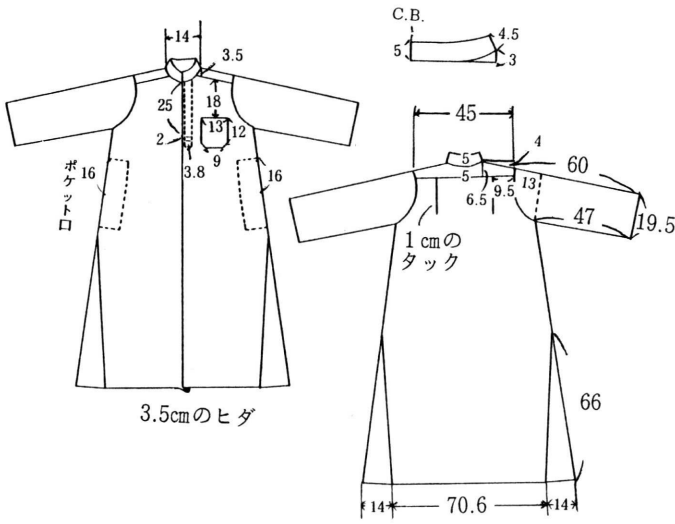


図8-1 資料4

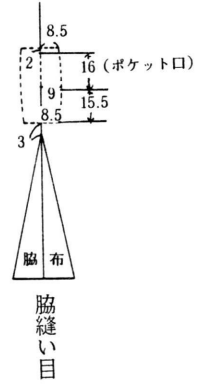
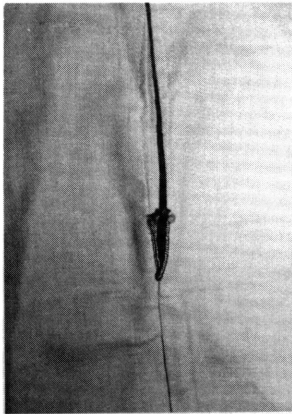
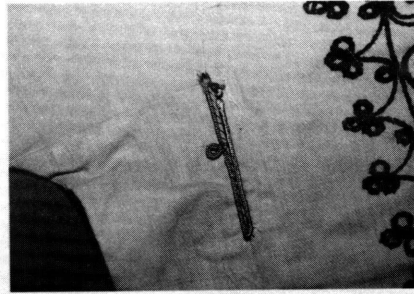


図8-2 資料4 左右脇ポケット



脇ポケット



胸ポケット

図9 資料2のポケット



資料2



資料3

図10 前明き部分 (161)

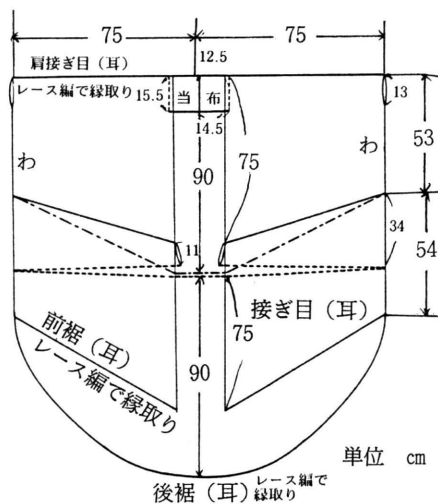


図11 資料5 Abaya



図12 Abayaの着装スタイル

### まとめ

私たちは“暑い”“寒い”，と季節の感じをよく言うが，その程度は日本では何ととっても，春夏秋冬，四季に分かれており，気候的に住み心地よい変化に恵まれている。

この度の研究では，地域により夏は40℃～50℃にもなることがあるという暑さと乾燥，樹木も少なく，その生活の厳しさは私たちにははかり知れないものが多くある。特に私たちは，太陽の照らす恩恵を心地よいものと思うのに，子供たちに太陽は恐ろしいものだ，と教えなければならぬ砂漠性乾燥地帯，又雨量が少なくその影響，そして厳しい戒律の宗教などによって，これらの特色ある民族の衣裳が受け継がれてきたと考えられる。

縫製については，寸法の正確さにもこだわらず，裏側の縫い方も自由で，特別丁寧な仕事をしてない，むしろ

全体的に見て縫い代の始末などなく雑であった。

資料4に関しては，レバノン・ベイルート市内で購入されたものであるが，“MADE IN KOREA”の表示があり，縫製は日本の既製のワイシャツなどとあまり変わらず，工場生産のものと考えられる。

エジプト製の資料1，2，3は，日本の着物のように定められた一枚の布から，伝統的に直線的な裁断がなされているように思われるが，これは今後の研究の課題としたい。

報告を終わるにあたり，三菱銀行業務本部法人取引推進部長山岡克己氏，同国際本部国際金融法人部中東室長磯辺隆介氏，並びに本学常務理事榎原實氏にいろいろとご協力いただいたことに対して感謝申し上げますと共に，生活資料館の皆様方にも厚くお礼申し上げます。



文 献

- 1) 田中千代：服飾事典，同文書院（東京）1970 p.186
- 2) 朝日新聞社：世界の衣裳，朝日新聞社（東京）1986 p. 114
- 3) 片倉もとこ：アラビア・ノート，日本放送出版協会（東京）1985 p. 64
- 4) 日本イスラム教会監修：イスラム事典，平凡社（東京）1982 p. 149
- 5) 黒柳恒男：イラン 栄光の過去と現在，泰流社（東京）1975 p. 96
- 6) 黒柳恒男：イラン 栄光の過去と現在，泰流社（東京）1975 p. 100
- 7) 黒柳恒男：イラン 栄光の過去と現在，泰流社（東京）1975 p. 95
- 8) 黒柳恒男：イラン 栄光の過去と現在，泰流社（東京）1975 pp. 151～152
- 9) 矢島文夫他：世界風俗事典Ⅱ 衣食住の巻アジア，三省堂（東京）1982
- 10) 人文社：新版世界大全図，人文社（東京）1986
- 11) 帝国書院編集部：中学校社会科地図，帝国書院（東京）1985
- 12) 前嶋信次：世界の歴史，講談社（東京）1976
- 13) 西敏彦：毎日新聞，毎日新聞東京本社（東京）1986